

家財綾



ミッション : 移住定住促進
着任 : 2019年5月～
出身 : 熊本県玉名市
前職 : 東京都中学校教員
飯豊のここが好き
いつも温かい飯豊の「人」♡

●飯豊に来た経緯

町企画の移住ツアーに参加した友人の紹介で飯豊町を訪れたことがきっかけ。町の雰囲気や温かい飯豊町の「人」に触れ、直感でここに住んでみたいと思った。30歳という年齢を機に人との関わりを大切にしたいと思い、飯豊町にご縁を感じ、移住を決意。



●活動①

【移住者交流会】

昨年度に引き続き、移住者交流会を実施。笹巻作り体験を通して交流した。笹取りからの体験で、大人も子供も一緒に楽しんだ。

移住者の方からは「飯豊の魅力は人」、地域の方からは「UIターンされた方とお話ししていると、より飯豊の魅力を感じ取れた。」と感想をいただいた。移住者、地域の人との交流から新たな発見や繋がりが生まれ、それが住んでいて楽しいことや定住につながっていくと感じる。来年度も新たな移住者に向けて交流の機会を作っていきたい。



●活動②

【雪囲い講習会】

移住者にとって初めての雪国暮らし。除雪や雪おろし等、雪に関する不安を取り除くため、白樺地区公民館と合同で雪国暮らしに必要な雪囲い講習会を実施。地域の方に雪囲いやロープワークを教わり、実習後は地域の方、移住者とお茶飲み交流会を開催。冬支度の時期、雪道の運転の仕方、方言などが話題となり、移住者にとっては雪の生活の助けとなり、地域の方とのつながりができた。来年度は、参加者の声から新たな企画を検討したい。



●活動③

【空き家バンク、移住希望者・移住者対応】

今年度、移住相談窓口を通して移住された方は1組。来年度初めには4組の移住を予定。移住後は、スムーズに地域に入れるよう、部落長さん等へお繋ぎしている。

<空き家バンクの状況>

内容	R1	R2	R3	R4
空き家バンク問い合わせ	31	71	53	50
空き家内覧	7	9	12	10
空き家登録	1	2	5	5
成約	4	3	5	5

令和5年2月末現在

**空き家を売りたい！
貸したい！
そんなときは**

地域おこし協力隊
移住定住コンシェルジュ
空き家バンク担当 新村 健

飯豊町では、空き家等の有効かつ適切な活用を通して、定住促進および観光化促進等を図るため、「空き家バンク制度」を実施しています。空き家を売りたい・貸したいという相談も多く、需要が増えていると感じています。登録に必要な空き家の写真撮影や権限取得などの作成もお手伝いできます。「古い家でも大丈夫？」「家財道具が揃っていない」と、お活用に関心があるかと思いますが、まずはお気軽にご相談ください。

問合せ先：
飯豊町役場 企画課 総合政策室
☎0238-87-0521

飯豊町 空き家バンク

飯豊町空き家バンク制度 をご利用ください！

所有している空き家・空き地の今後について、お悩みではありませんか？人が住まなくなった空き家は特に損傷が進行しやすい傾向があり、そのままおいておく以外選択肢がなくなってしまいます。空き家や空き地を「売りたい・貸したい」とお考えの方は、町の空き家バンクの活用についてぜひご検討ください。

☆空き家バンク制度とは？
空き家・空き地の所有者と、利用希望者をつなぎ、空き家・空き地の利活用を促進する目的の情報登録制度です。

☆どんな条件が登録できるの？
飯豊町にある空き家・空き地で、下記に該当するものが登録可能です。
①登記上の所有者が明確で、所有者に空き家・空き地の利活用の意思があること
②劣化が激しい危険空き家でないこと
③即入居可能な物件、修繕・片付けが不要な物件は購入・賃貸の希望者多く、登録から契約成立までスピーディーに進む傾向があります。

☆登録後はどうなるの？
町のホームページや全国空き家バンクホームページに空き家・空き地情報を掲載します。売買・賃貸希望者から問い合わせや見学希望があった際には町から所有者様にご連絡します。

空き家所有者

- ・空き家・空き地を利活用したい
- ・空き家の管理が大変
- ・固定資産税が負担

空き家利用希望者

- ・田舎暮らしがしたい
- ・大きな家に住みたい
- ・住み替えを検討している

物件登録 ← 内覧希望等の連絡、情報提供 → 利用登録

飯豊町空き家バンク制度

- ・空き家の情報提供、現地調査
- ・内覧日程調整
- ・各種サイトにおける情報公開
- ・内覧への立ち合い

★実際に空き家バンク制度を活用された方の声を聞きました。

●空き家所有者さん
空き家バンクに物件を登録後、懇話会以上で内覧会がありました。登録から数ヶ月の調査情報を経て契約となりました。今後空き家はどうしていきたいかと思いましたが、すぐに買い手が見つかったのが驚きでした。空き家は住む方はいない状態でしたが、住む方には良い状態だと感じています。

●空き家を購入した方さん
里山で暮らしたいと思い、山形県の空き家バンクで物件を探していました。空き家バンク以外にも不動産やSNSで探しましたが、地域との繋がりの面でも空き家バンクを利用させてもらったことで、比較的早い段階で生活する上で不便はありませんでした。住む方には良い状態だったので、交流も増え充実した移住生活を送っています。心より感謝しています。

空き家の所有者さんへ空き家バンク資料を送付し、登録を促しました。

加藤 絵美



ミッション
着任
出身
前職

：アウトドア体験実施及び普及
：2020年9月～（3年目）
：埼玉県さいたま市
：美術館学芸員

飯豊のここが好き：山・森・湖など豊かな自然があり、温かい人がいること

●飯豊に来た経緯

きっかけは、東京での移住フェアで、役場の企画課の方々に声を掛けていただいたことでした。町を気に入った夫が先に移住し、私も後から飯豊へ。前職とは畑違いですが、イベント企画の経験や学生時代からの登山経験を活かせると考え、協力隊に着任しました。



飯豊連峰・杵差岳にて

●活動①観光×アウトドア

【アウトドアアドバイザー招聘】

昨年環境省エコツアーガイド育成事業の採択を受けました。この学びを広域に広げるべく、5月にアウトドアアドバイザーの木村雄志氏を招聘。白川湖の水没林カヌー体験の視察とともに、講演会「農山村地域とアウトドア」を開催しました。講演会には観光関係者26名が参加。「飯豊町は主要都市から2時間圏内でアクセスが良い。また地域の自然資源のすべてを観光資源と捉えアウトドアに結び付けることが重要」と木村氏。参加者とも活発な質疑を交わしました。



アウトドア関連セミナーのご案内

2022年5月13日(金)
14:00 - 15:30
中部地区公民館
ホール
飯豊町大字萩生3548
TEL 0238-72-2126

日本で最も多くのアクティビティツアーを取材している、木村雄志氏（アウトドアアドバイザー）。ウェブサイトの構築や解析にも明るい専門家の目線から、今回は、農山村地域とアウトドアについてレクチャーします。豊かな自然を活かしたアウトドアの可能性や地域の産業と繋がることの重要性について、具体例を交えながらお話しします。こうした観光素材を資源として活かすための効果的な情報発信についても触れる予定です。

【講師紹介】木村雄志
予約サイト「そとあそび」運営業務責任者
環境省 国立公園湖沼P人育成事業検討委員 / 環境省 エコツアーリズム人材育成事業 検討委員 / 福井県観光連盟外部専門家 / 日本セーフティパドリング協会 (JSPA) アドバイザー

【お申し込み】電話がメールで、名前と電話番号をお知らせください。
飯豊町役場 商工課観光交流室 地域おこし協力隊・加藤
TEL 0238-87-0523 E-mail i-kankou@town.iide.yamagata.jp

5/10 (火)
申込バッチ

チラシと
会場風景



●活動②観光×山

【天狗山ガイド講習会とツアー】

5月に小白川地区区民会天狗山部会と連携し、2回のガイド講習会を開催。そして7月には同部会がやまがたアルカディア観光局よりツアーを販売。県内から6名が参加しました。今後も天狗山の復興と併せ継続したいと考えています。

【飯豊連峰山開き】

7月、3年ぶりの開催となる飯豊連峰二町合同山開きに携わらせていただきました。大日杉登山小屋に集まり、1日目は神事、2日目は地藏岳・御坪の2コースに分かれて、記念登山を行い、飯豊山を眺めました。



7月開催ツアー「深緑編：梅雨の晴れ間 緑輝く植物や小さな生き物たちに目を凝らして」



2022.07.03 飯豊連峰 山形県側 二町合同山開き 登頂記念(地藏岳1,539mにて)

●活動③観光×森林×アート

【木の作り手プロジェクト「森の道」】

2月、10日間に渡って画家の山本晶さんが飯豊町に滞在。飯豊町の8割を占める森林（特に広葉樹）を活かした作品制作プロジェクトを行いました。山本さんは、古歌に詠まれた地名を追い、関川村から小国・飯豊・川西町を通っていたという塩の道をリサーチ。途中にある大館山を踏査したほか、森林の伐採現場や製材所を見学して得られた素材の情報をもとに、絵画制作ワークショップを開催しました。杉板に描かれた参加者の森のイメージを繋ぎ合わせ、飯豊の新しい地図を作り上げました。



中津川地区公民館でのワークショップ風景



飯豊すくすくこども園での展示風景

後藤 武蔵 ミッション : 未利用資源を生かした起業 SDGsの普及



着任 : 2021年10月～
出身 : 飯豊町萩生
前職 : トヨタ自動車
飯豊のここが好き

:おいしいご飯&優しい人

●飯豊に来た経緯

飯豊町に貢献したいと考えていましたが、何ができるかがわからず、大学卒業後民間企業で修行。自分なりに成長を感じ、飯豊に帰ることを決意。SDGs普及員として、SDGsの普及を通じて、町の課題や可能性調査を実施中。



●活動①

【SDGsカードゲーム】

SDGs カードゲームとは、カードゲームを通じて、SDGsを学ぶことができるもので、「SDGs de 地方創生」、「SDGsゲットザポイント」の2つを実施しました。特に、「SDGsゲットザポイント」はSDGsを学ぶカードゲームの中でも一番わかりやすく、どの年齢の方でもSDGsの本質を学ぶことができるゲームで、今年度は第一小学校と第二小学校で開催しました。どちらもすごく盛り上がり、SDGsを楽しく学ぶことができました。来年度も町の皆さんと一緒に楽しくSDGsを学んでいきます！



●活動②

【おにぎりアクション】

おにぎりアクションとは、おにぎりの写真を専用サイトやSNSへ「#Onigiri action」をつけて投稿することで、発展途上国の子供に投稿1件につき、5食分の給食が届けられる取組です。

今年度は、椿地区の婦人会の皆さんと一緒に実施しました。私たちに身近なおにぎりを使って、飢餓問題の解決に携わることができる取組です。

来年度はもっと多くの町民の方とのおにぎりアクションの実現を楽しみにしています！



●活動③

【SDGsアクション】

まずは自分たちから率先してSDGsに取り組んで行こう！という目標のもと、普段の生活からSDGsアクションを実践しました。実際に実践してみて、コンポストなどは、ごみの削減や肥料としての利活用もできるため、SDGsアクションとして推奨されていますが、虫が湧いたり、冬場の処理の難しさなど、やってみて初めて分かることが多くありました。来年度は、やり方の改善や手軽にできる方法なども模索していきます。そしてこの輪をもっと広げていきます！



項目	結果	項目	結果
男性家事	169回	PETリサイクル	731本
水使用量削減	17784L	段ボールリサイクル	88.9kg
町内買い物	281,239円	古紙リサイクル	46.5kg
コンポスト	40.8kg	食品トレイリサイクル	246枚
カーシェア/徒歩通勤	6226km	牛乳パックリサイクル	90枚
マイバック	94回	卵パックリサイクル	89枚
マイボトル	348回	空き缶リサイクル	776本
エコジヤ植林本数	158本	PETキャップリサイクル	99.4kg

小野 優太郎 ミッション

：未利用資源を生かした起業
ゼロカーボン推進



着任
出身
前職
飯豊のここが好き

：2021年10月～
：宮城県名取市
：石油精製、IT関連会社

：晴天×雪山の絶景

●飯豊に来た経緯

2011年3月、東日本大震災を経験し、原発問題から、再生可能エネルギーに対する想いが強くなりました。ある時、後藤から「一緒にバイオマス発電をやろう」と連絡をもらい、形にできる、何より後藤と仕事がしたいと思い、飯豊に来る決意をしました。



●活動①

【くるくるショップ】

くるくるショップとは「不要になったけど、まだまだ使える物」を持ち込み、使い捨てではなく、物を大事にする気持ちを活かす場所です。持ち込まれた物はもう一回使ってもらえる人の元へ旅立っていくシステムです。2022年4月からオープンし、たくさんのものでリユースすることができました。また、公民館や学校行事などで、くるくるショップを実施して頂き、共感の輪が広がっていることがとても嬉しかったです。この場所が飯豊町ゼロカーボンの発信基地になるように頑張っていきたいです。



●活動②

【森林整備活動】

飯豊町のゼロカーボンに向け、昨年度から森林整備活動を行っています。今年度の森林整備活動では、刈り払い、伐倒、玉掛け、重機を使っての木材整理や木材運搬など様々な業務を行ってきました。どの作業もまだほんの触りの部分しかできていませんが、面白さと難しさを実感しています。特に痛感したのは、作業の安全性とスピード感の両立の難しさです。来年度は、重機への慣れを意識して積極的に重機操作を学ぶように活動していきたいと思っています。



●活動③

【飯豊モデルの作成】

飯豊モデルとは、山形大学と連携し、飯豊町でのカーボンニュートラル実現を目指す取組です。各分野で温室効果ガス(GHG)の排出状況を数値で把握し、具体的なゴール・行動まで落とし込んだロードマップを作成します。また、この取組に係る手法を他の地域と共有し、山形県全域に広げていきます。今年度は、地域の温室効果ガスがどれだけ排出されているのか、反対に森林などによってどれだけ吸収されているのかを項目別に数値化し、具体的に見える化を行いました。

飯豊町GHG排出量・吸収量見える化



武田 親祐



ミッション : 農業応援隊
着任 : 2022年08月～
出身 : 山形県山形市
前職 : 飲食業
飯豊のここが好き
: 田園風景

●飯豊に来た経緯

山形で就農の機会を探している中、飯豊町で農業応援隊として協力隊を募集している事を知りました。飯豊町は何度か訪れたこともあり、自分のやりたかった農業を地域活性化にも繋げられればと思い移住を決意しました。



●活動①

【農業法人での活動】

自分が一番やりたかった稲作。飯豊町と言えばやっぱり美味しいお米！！年々消費量が落ち込む中、米粉や輸出米含め米の消費拡大に向け東京の米卸売会社の木徳神糧さんや農水省の官僚の方と対談できる研修にも参加させて頂きました。また、飯豊町ならではの畜産との連携も重要と感じました。稲わら→牛→堆肥→水田という流れの循環型農業を徹底していけば肥料高騰対策や地域活性化に繋げていけるのではないかと思います。大きなことを言いましたが、まずはしっかり農作業を覚えたいです笑



●活動②

【活動地域での交流】

農作業を通しての地域交流も積極的に行いたいと考えており、中地区の沖環境保全協議会で毎年行っている昔ながらの手作業でのもち米作りに参加させて頂いています。ただ、最近餅つきは行っていないということで是非子供たちにも体験してほしいと思い数年ぶりに開催して頂きました。順番待ちしながら小さい子から大きな子まで初めての餅つきを楽しんでもらえたように感じました。お雑煮等も準備させて頂き、最後は沖の公民館でみんなで美味しく頂きました。来年度からも交流行事として行っていけたらと思っています。



●活動③

【農閑期（冬場）の仕事】

農家の冬の仕事は地域共通のひとつの課題かと思います。今回は、『若乃井酒造』さんで酒作りの研修をさせて頂きました。搾りたての日本酒は黄金色で爽やかな香りがします。大変貴重な体験でした。また、人手不足で新酒の宣伝ポスターを作っていないとのお話もあり、ポスターを作成させて頂き近隣の小売店様へ配布させて頂きました。是非今だけの新酒をみなさんに広く味わって頂ければと思います。工場隣に『わかのい屋』という店も昨年オープンしており、販売している酒粕プリンなどの商品をきっかけに日本酒をもっと手に取ってほしいという社長の熱い思いもお伺いする事ができました。

